

●小児てんかん

小児てんかんにはいろいろな種類や症状がみられ、成長に伴って治っていくてんかんや、難治性のてんかんなどがあります。

小児てんかんは原因によって、大脳が傷つくことによって起こる症候性てんかんと原因不明の特発性てんかんに分けられます。小児てんかん全体では原因不明の特発性てんかんが多く、発病は生後から3歳までと学童期に起こりやすいことが知られています。

脳波検査、頭部画像検査などを行い、診断し、必要に応じて抗てんかん薬の投与を一般的には3年～5年間行います。